

**令和元年度第1回
宮城県試験研究機関評価委員会（農業関係試験研究機関評価部会）
研究課題に係る評価実施結果**

1 評価委員

評価委員名	所属・職名等	摘要
菊地 郁	公立大学法人宮城大学食産業学群 准教授	部会長
白鳥 正文	有限会社川口グリーンセンター 代表取締役	副部会長
麻生 久	国立大学法人東北大学大学院農学研究科 教授	委員
中村 聡	公立大学法人宮城大学食産業学群 教授	委員

2 評価対象課題

評価対象課題名	概要	実施期間	予算額	摘要
6次産業化の導入・定着条件の解明と経営モデルの策定	6次産業化に取り組んだ経営体の現状と契機、現在に至るまでの背景等を整理することにより、導入・定着条件を解明、類型別の経営モデルを作成する。	平成28～30年度	1,707千円	事後評価
四季成り性イチゴ生産の夏期高温対策技術の確立	四季成り性イチゴ品種「すずあかね」を利用し、赤外線反射遮光資材や布団資材等の熱線カット資材と簡易ミスト発生機による気化熱を利用した高温対策を組み合わせて高温対策を検証する。	平成28～30年度	4,023千円	事後評価
夏秋期における小ギクの露地電照栽培体系の確立	夏秋小ギク栽培に、生産省力化と需要期の安定生産が期待できる露地電照栽培体系を確立するため、本県の気象条件にあった消灯日や品種を明らかにする。	平成28～30年度	4,028千円	事後評価
農生態系内の生物多様性向上による総合的病害虫管理技術の開発	農生態系の多様性を向上させることで有用生物群の活動を高め、病害虫の被害を軽減する技術を開発する。具体的には、有用天敵の利用のための植生管理技術、光や臭い物質等を利用した害虫・天敵類の行動管理技術及び拮抗微生物などの有用微生物管理技術の開発を行う。	平成26～30年度	5,232千円	事後評価
宮城県における先進的水稲省力・低コスト栽培技術の確立	「ひとめぼれ」による直播栽培の鉄コーティングにおける現場での問題を解決し安定収量を得られる技術を確立すると共に、疎植栽培での高品質安定収量のための適応要素を明らかにする。	平成28～30年度	11,318千円	事後評価
ダイズ病害虫の総合的管理技術の確立	茎疫病や黒根腐病等の病害の発生条件を解明し対象薬剤の効果的利用方法を検討するとともに耕種的防除技術も検討する。害虫では、フタスジヒメハムシの発生生態を解明し発生予察手法を開発する。	平成26～30年度	7,043千円	事後評価
除染後の牧草地における草地管理技術の確立	除染後の草地において牧草への放射性物質移行を抑制できる栽培管理や再更新手法について検証するとともに、放射性物質を含む堆肥を施用した場合の飼料作物等への移行軽減手法について検証する。	平成27～30年度	6,298千円	事後評価
暗渠を利用した土壌水分コントロールによる水田基盤活用技術の確立	暗渠を利用した土壌水分コントロールが大豆作に及ぼす塩害抑制効果を検証し、暗渠の多目的活用技術を示す。	平成28～32年度	6,000千円	中間評価

3 評価項目

(1) 事後評価

- イ 目標の達成度
- ロ 研究成果
- ハ 地域への貢献度・波及効果
- ニ 総合評価

(2) 中間評価

- イ 計画の進捗度
- ロ 情勢変化等への適合性
- ハ 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見通し
- ニ 総合評価

4 評価結果（コメント等は別紙参照）

(1) 6次産業化の導入・定着条件の解明と経営モデルの策定（事後評価）

A「優れた研究であった」

(2) 四季成り性イチゴ生産の夏期高温対策技術の確立（事後評価）

A「優れた研究であった」

(3) 夏秋期における小ギクの露地電照栽培体系の確立（事後評価）

B「妥当な研究であった」

(4) 農生態系内の生物多様性向上による総合的病害虫管理技術の開発（事後評価）

A「優れた研究であった」

(5) 宮城県における先進的水稲省力・低コスト栽培技術の確立（事後評価）

A「優れた研究であった」

(6) ダイズ病害虫の総合的管理技術の確立（事後評価）

A「優れた研究であった」

(7) 除染後の牧草地における草地管理技術の確立（事後評価）

A「優れた研究であった」

(8) 暗渠を利用した土壌水分コントロールによる水田基盤活用技術の確立（中間評価）

A「計画どおりである」

5 研究課題評価表

別紙のとおり。